

支笏湖ビジターセンター便り

みんな質問が寄せられました

2019年(平成31年)2月号 Vol. 110

Q. 最北の不凍湖は凍った？

観測史上

最強寒波襲来

最北の不凍湖として有名な支笏湖。ですが支笏湖は、知る人ぞ知る、まれに全面結氷する湖です。そのため今回の寒波襲来に伴ってこのような質問が数件寄せられました。



A. 凍りませんでした

気温の低い日が一週間以上続きましたが、貯水量全国2位を誇り大量の水をたたえる支笏湖の水温が凍るほど下がるには、さらに長い期間冷え込むなどの条件が必要です。湖岸で一部氷が張った場所はありませんがこれは例年の現象。全面結氷はありませんでした。

なぜ、最強寒波襲来？

1月下旬に非常に冷たい空気を伴う北極付近の低気圧「極渦」が分裂する「極渦崩壊」が起きました。2つに分かれた極渦は、一つは北米（ミネソタ州では氷点下4.1度を記録、死者も出るほど）に、もう一つはシベリアを経て北海道上空に流れ込みました。「極渦崩壊」は一般的に年に数回起こりますが、今回記録的な寒さとなったのは、シベリア上空を通った際に寒気が蓄積されたためとのことです。（札幌管区気象台より）



棧橋のしぶき氷（2月11日）



遊覧船 船置き場の結氷（2月14日）

2月8日～9日にかけて

おさらいでは、
全面結氷の条件は

前回の全面結氷は

2001年2月15日から4月10日。

当時の支笏湖地域の様子はどうだったのでしょうか。

長期間にわたって気温が低かった

前年12月から平年値を下回る厳しい冷え込みとなり、2月に入ると氷点下10℃を下回る日が続きました。

水温が低下していた

千歳市支笏湖ヒメマスふ化場の記録によると水面温度が1月から低下し2月になってからは1℃～2℃で推移、全面結氷前日には0.9℃まで下がりました。

まとまった降雪があった

2月1日にまとまった降雪（降水量として53mm）があり、詳しい記録はありませんが積雪は30～40cmになったと思われます。

そのうえ…

強風が吹かなかった

湖面をめぐる風が弱いときに降雪があると湖面がシャーベット状の雪に覆われます。2月1日の積雪が湖上で凍結し、この氷が全面結氷の引き金になったと考えられています。

支笏湖は全国8位の大きさながら、貯水量では大きさ全国1位の琵琶湖に次ぐ2位。

まるでバケツのような形状の湖の表面が凍結するには数々の自然条件が必要です。

湖の全面結氷は、厳しい冷え込み、まとまった降雪、風が弱く風（なぎ）に近い湖面という何十年に1回あるかないかの条件が重なって起きる、奇跡のような自然現象なのです。

記録に残る
全面結氷
(新しい順から3回)
1953年
1978年
2001年

当時を知る支笏湖地域に住む方のお話
「12月からとても寒い年でした。灯油タンクのパイプが凍ってストーブが使えなくなったこともあって大変でした。凍った箇所を溶かすのに苦労しました」

参考資料：「2001年、支笏湖と洞爺湖が凍った理由」
「支笏湖の水と自然」

支笏湖温泉の 気象

支笏湖畔の気温・降水量・日照時間
～気象庁アメダスによる
平年値と今年の観測～

日照時間(h)

	平年値	今年
1月上旬	27	35.7
中旬	27.8	29.3
下旬	32.3	36.3
2月上旬	34.5	30.5

気温(°C)

	平年値	今年
1月上旬	-4.2	-4.1
中旬	-5	-5.4
下旬	-5.5	-4.7
2月上旬	-5.3	-7.4

降水量(mm)

	平年値	今年
1月上旬	36	0
中旬	28.1	28.5
下旬	36.4	52
2月上旬	19.7	21.5

12月、1月と続いた高めの気温でしたが2月に入ってから厳しい冷え込みとなりました。特に強い寒波に覆われた2月8日以降は、8日の日最高気温が観測開始以来2番目に低い氷点下11.6度、9日の日最低気温が観測開始以来4番目に低い氷点下16度を観測するなど厳寒状態となっています。

ところで、日最低気温が低い方の1～3番目はいずれも支笏湖が全面結氷した1978年2月中に観測されたものです。今冬も全面結氷かも！と期待したいのですが、大きな違いは全面結氷し記録がきちんと残っている1978年と2001年は、ともに前年の12月から厳しい寒さが続いたということ。今冬はどちらかといえば暖冬気味でした。

アクティブレジャー日記



七条大滝（下見時の様子）

先日、一面銀世界となっている支笏湖で、千歳市さんとの共催行事「冬の七条大滝自然観察会」を開催しました。七条大滝の滝壺へ続く階段が雪で埋まり、滑りやすくなっていたので安全面を考慮し、上から眺める方法となりましたが、エゾキウサギやエゾリス等の足跡が見られ、野鳥では、上空で優雅に飛翔しているオジロワシを発見することが出来ました。参加者の皆さんは、スノーシューの履き心地を楽しみながら、冬にしか見られない景色を満喫していました(^_^)

環境省 支笏洞爺国立公園管理事務所
アクティブレジャー（自然保護官補佐）
當山 真貴子

ビジターにおいでよ

展示物の紹介



支笏湖の森を紹介する展示では、シマリスの冬越しの様子が再現されています。秋のうちにトンネル状の巣穴の中にドングリなどの食料を貯蔵しておき、冬になるとトンネルの出入口にフタをして冬眠に入ります。

冬眠中もときおり目を覚ましては貯蔵したドングリを食べ、春が来るまで過ごしているそうです。

また、寝室スペースとは別にトイレ用のトンネルも掘るなど、衛生面にも気を使った作りになっており感心してしまいます。

ちなみに北海道に生息するもう一種のリスであるエゾリスは、雪も寒さも平気で冬も活動しています。雪上に残る「!!」形の足跡は、エゾリスがそこを走り回った証拠です。

自然ふれあい行事『スノーシューハイク』

紋別岳の山腹に行き、針葉樹の大木が佇む雰囲気を楽しみます！

日にち：平成31年 3月 9日(土)・17日(日)

時間：9:45～13:45 参加費：無料

定員：中学生以上各回8名

**お申し込みは
1カ月前から受け付けます。**

スノーシュー
は
貸し出します
(無料)



支笏湖ビジターセンター運営協議会発行
〒066・0281 北海道千歳市支笏湖温泉番外地
☎ 0123・25・2404
HPアドレス <http://shikotsukovc.sakura.ne.jp>

【開館時間】 ※入館無料

4月から11月 午前9時から午後5時30分まで
12月から3月 午前9時30分から午後4時30分まで
(火曜日休館・祝日の場合は翌日)
年末年始休館日 12月29日から1月3日まで

千歳写真集団

2月28日15:00まで

素晴らしき北の大地 写真展

千歳市のアマチュア写真家グループの写真展を催しています。支笏湖や道内の自然を捉えたものや表情豊かな人物、動植物などの写真30点が展示されています。どれも写真の世界に引き込まれるような印象的な作品です。ぜひ見てください！